

# スライド作成のABC

医学生・初期研修医が研究発表、学会発表、勉強会などに参加するに当たって避けて通れないのがスライド作成です。見やすく、わかりやすいスライドを作るには、どうすれば良いのでしょうか？  
初学者でも修得できる“一生モノ”のエッセンスを本連載で学びましょう!

## Lesson 02 スライドの構成の考え方

柿崎真沙子 名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野 講師

一からスライドを作るとき、皆さんはどうやっているのでしょうか？メモ帳やワード、エクセルなどに必要な要素を書き出し、全体の構成をきっちり組み立ててから、パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを開きますか？それともいきなりプレゼンテーションソフトを開き、とりあえず作り始めてみますか？ちなみに私は、学会発表などある程度決まった構成がある場合は前者の「事前に構成を組み立て、必要な要素を落とし込む」方法を使い、「感度・特異度の講義用スライドを作る」のようにテーマが漠然としている場合は後者の「とりあえず作ってみる」方法を採用しています。どちらがより作りやすいかは状況によって左右されると感じているからです。スライドを作成する際に「どちらの方法が良い」という優劣はないと思います。

### 抄録から構成を作り込む

学会発表は多くの場合、背景や目的、方法、結果、考察、まとめというような流れが定まっており、発表時間も決まっています。そして、発表スライドを作成する前に、これらの内容を学会抄録(アブストラクト)にして提出する必要がある、指定された構成や文字数の範囲内で過不足なく、正確に、内容がわかるように記載することが求められます。この字数制限は比較的短めに設定されていることが多いので、書き込む内容は吟味する必要があります。つまり、考え抜いた末に作成した学会抄録は、プレゼンテーションの構成としても練り上げられたものになっているはず。実際学会発表用にスライドを作成する際は、すでに提出している学会抄録に沿ってスライドを作っていけばまとまったスライドができるでしょう。

あまりにも学会抄録が短すぎる場合は、発表に使うスライドのほうが抄録より内容が多くなるため、どのような内容を加えるかも考えなくてはなりません。その場合は、入れたほうが良いかもしれないと感じたスライドをとりあえず全て作ってしまい、発表時間を計りながら内容を検討します。その際は、文字数の制限の関係で抄録から削らなければならないことが、発表内容のメインとはならないものの

解析結果として重要だと思われること、自分の研究の目的や考察がより明確になる追加情報などを中心に付け加えていきます。最後に発表のまとめなどを入れるとわかりやすくなったり、内容によっては謝辞が必要になったりすることもあります。

スライドを付け加えていく際は、枚数や内容が発表時間に対してあまり多くなりすぎないようにしましょう。1分当たりスライド1枚+アルファ(つまり10分の発表であればスライドの枚数は10~15枚程度)とよく言われますので、それを目安にすると良いでしょう。とはいえ、早口で話す方やスライド1枚に含める情報がそこまで多くない場合は枚数が多くても大丈夫ですし、逆にゆっくり話す方や、1枚の情報量が多い場合などは少なめが良いと思います。あくまで数値は目安として考え、個別の状況に応じて調節しましょう。ただし、付け加える中で抄録の内容と齟齬がでないように注意してください。

### 悶々と悩むくらいなら手を動かそう!

テーマが漠然としている場合、構成をきっちり考えようと思っても考えがまとまらずに悶々と悩むだけになってしまうことが多いので、私はとりあえずプレゼンテーションソフトを開き、次に示す①~④のように手を動かしながら考えることにしています。

- ①「入れたい」と思ったスライドを、タイトルだけ作る。
- ②全体の流れを考えながら、他に必要なスライドをタイトルだけ作る。
- ③タイトル以外にも説明したい内容がすでに決まっていれば該当スライドにメモ書きを入れる。
- ④スライドの順序を整え、内容を作り込む。

すでに具体的なスライドの内容がイメージできている場合は、①の時点で作り込んでしまうことも多いですが、まずはタイトルや説明したい内容をメモレベルで記載したスライドだけをひたすら作り、後から順序の調整や内容の作り込みを行います。

そうやって概要だけ作っていると、「この内容はこの後に入れたほうが良いかも」「これを加えると流れがわかりやすくなる」「このテーマだったらこのスライドを入れない」といったアイデアが思い

浮かんできます。アイデアを反映し、全体の流れがある程度固まったら、メモ書き程度のスライドでも1度発表をイメージして全体を通し、内容を確認してみましょう。確認してみて、発表時間に対してスライドの枚数が適切か、何か引っかかる点がないかを考え、さらにブラッシュアップします。それを何度か繰り返していくと、発表に必要なスライドが見えてくると思います。

個々のスライドのブラッシュアップは、私は手を動かしながら考える派です。入れたい項目をノートにメモしたり、どういう図が良いかいくつかノットにざっと書いてからスライドに起こしたりする場合がありますが、「とりあえずスライドに並べてしまえ!」とばかりに項目を羅列したり、雑にオブジェクトや表を作り、後からきれいに手直ししたりすることもあります(図)。とりあえず手を動かしていると「あれ?文章にしてみたけれど、これは図表のほうが良いのでは……」「図表だけでいいかなと思っただけで、解説の文章を入れたほうがわかりやすいかもしれない」「後半にあったスライドを前半に持ってきたほうがいいのかも」など、いろいろ考えも変わってきます。ですので、ノートを目の前にして悩むようならば、プレゼンテーションソフトを立ち上げとりあえずいじってみるというのを私はお勧めします。

### 予行演習をして柔軟に構成を変える

スライドの順番を整え、内容も詰め切ったにもかかわらず、1度説明してみたらわかりにくく、変更を余儀なくされたことは多々あります。発表の内容をぶつぶつぶきながら流れを確認したり、実際にスライドを投影して予行演習をしたりすることは、わかりやすさを客観的に判断するためにとても重要だと思います。構成を先に作り込んでスライドに起こしていく場合でも、構成をあまり考えずにとりあえずスライドだけ作っていく場合でも、予行演習をしてみて違和感があったら構成や内容を変更する、という柔軟性はとても大切です。

### a 被保険者(加入者)と財源構成

	第1号被保険者	第2号被保険者
対象	65歳以上の者	40-64歳までの医療保険加入者
人数	3,094万人	4,275万人
要件	要介護状態 要支援状態	要介護・要支援状態が特定の疾患に起因する場合
割合		
負担	市町村が徴収 (原則、年金から天引き)	医療保険者が一括徴収

  

	第1号保険料(21%)	第2号保険料(29%)
保険料(50%)		
公費(50%)	国庫負担金(25%)	都道府県負担金(12.5%) 市町村負担金(12.5%)

### b 被保険者(加入者)と財源構成

	第1号被保険者	第2号被保険者
対象	65歳以上の者	40-64歳までの医療保険加入者
人数	3,094万人	4,275万人
要件	要介護状態 要支援状態	要介護・要支援状態が特定の疾患に起因する場合
認定者数	546万人(17.6%) 65~74歳:69万人(4.4%) 75歳以上:477万人(31.4%)	15万人(0.4%)
負担	市町村が徴収 (原則、年金から天引き)	医療保険者が一括徴収

  

	第1号保険料(21%)	第2号保険料(29%)
保険料(50%)		
公費(50%)	国庫負担金(25%)	都道府県負担金(12.5%) 市町村負担金(12.5%)

### c 被保険者(加入者)と財源構成

	第1号被保険者	第2号被保険者
対象	65歳以上の者	40-64歳までの医療保険加入者
人数 <sup>1)</sup>	3,382万人	4,275万人
要件	要介護状態 要支援状態	要介護・要支援状態が特定の疾患に起因する場合
うち認定者数 <sup>1)</sup>	607万人(認定率:17.9%) 65~74歳:76万人 75歳以上:531万人	14万人(認定率:0.3%)
負担	市町村が徴収 (原則、年金から天引き)	医療保険者が一括徴収

  

	第1号保険料(22%)	第2号保険料(28%)	国庫負担金(25%)	都道府県負担金(12.5%)	市町村負担金(12.5%)
利用者負担					
自己負担(1~3割)					
公費(50%)					
自己負担(7~9割)					

### ●図 介護保険について説明したスライドのブラッシュアップの過程

- a とりあえず手元にある情報を並べたもの。認定者数の割合が算出できておらず、空欄にしてある。見た目をまだ整えていないため、列の幅や矢印の向きがそろっていない。
- b 見た目をきれいに整えたもの。列の幅を整え、第1号被保険者と第2号被保険者で色を変えて対比する。認定者数の人数と割合の値を追加。フォントの大きさや矢印の向きなども整える。
- c わかりやすさのための最後のブラッシュアップ。保険料の負担割合(下部)の表を帯グラフに変え、構成比率を見やすくした。色の濃淡を調整し、数値の出典元を追加。

## 医療者のスライドデザイン

プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書

小林 啓

●B5変型 2023年 頁200 定価:3,740円(本体3,400円+税10%) [ISBN978-4-260-04773-9]

### プレゼンテーションに悩む、すべての医療者・学生へ

デザイナー兼現役医師による、医療系スライドをデザインの視点から徹底的に解説する指南書。

伝わるデザインにはルールがあり、ポイントを押さえることで医療のプレゼンテーションは大きく改善します。

デザインの理論だけでなく、幅広い職種に応じた多くの実例スライドを紹介し、BEFORE/AFTER形式で具体的に理解することができます。

演習問題や実例スライドを特設サイトからダウンロードし、手を動かすトレーニングが可能です。

スライドの他にも、研究ポスター、チラシ、オンラインプレゼンテーションなど、医療者が直面するデザインを見やすく、伝わりやすくするためのテクニックを多数紹介します。

**医学書院**

#### 目次

- Chapter 1 準備をする
- Chapter 2 整える
- Chapter 3 余白
- Chapter 4 配色する
- Chapter 5 画像にする
- Chapter 6 時間を操る
- Chapter 7 デザイン実例集
- Chapter 8 オンラインプレゼンテーション
- Chapter 9 医療とデザインの可能性

詳細はこちら